

Ⅱ まちづくりの戦略

1 戦略の柱

柱① 公共施設の再配置と跡地活用を通じて、まちの再生と機能向上を進める

土地利用再編事業の対象となる市有地は約60haにのぼります。官民連携で、義務教育学校や管理センター等の複合施設や、市営住宅などの公共施設の再配置・建替えとともに、跡地活用を進めることで、もみじ台のまちを更新します。高度利用と集約によって生み出した跡地には民間施設・住宅の導入を図ることで、まちの機能向上を推進します。



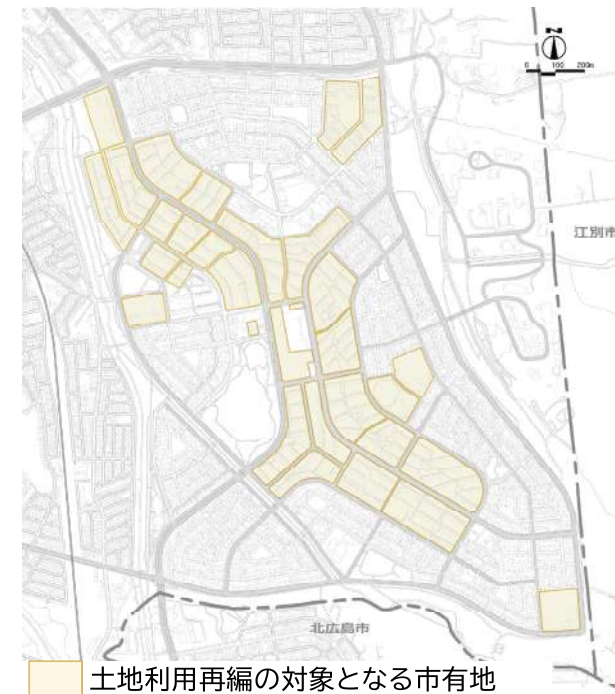
柱② 安心して住み続けられる環境と基盤を整える

まち全体で高齢化や単身世帯化が進行しています。安心して住み続けるためには、地域の支え合いや交流、その活動場所や移動サービス等の充実が不可欠です。ハードだけでなく、デジタル技術も活用したソフトの取組を並行して推進します。



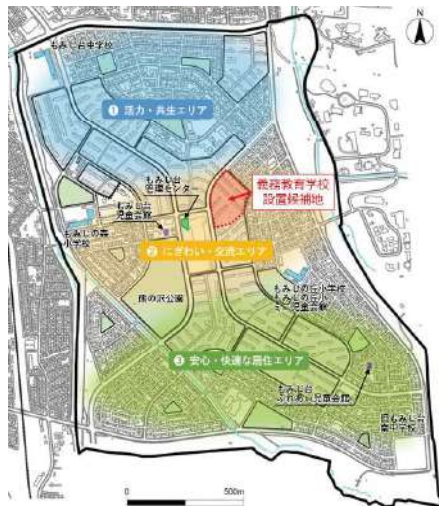
柱③ 官民連携手法により、持続可能なまちの運営の仕組みをつくる

市や地域の取組をつなぎ、新しい推進力や価値をもたらすため、民間のノウハウや知見の積極的な活用を図ります。建替え前の市営住宅の空き住戸の活用や事業者募集の段階から、エリアマネジメントの仕組みづくりや試行、機運醸成を進めていきます。

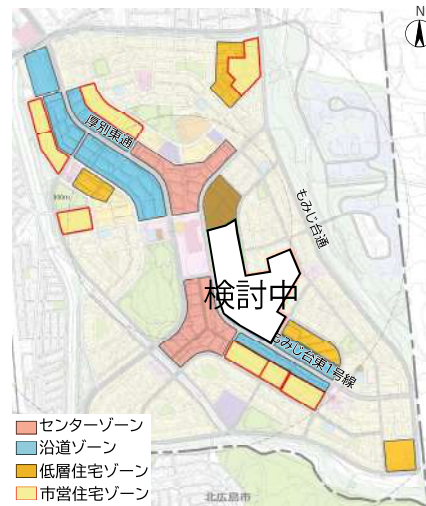


右図の土地利用再編イメージでは、もみじ台地域まちづくり指針での整理をもとに、再編事業によって跡地となる市有地にゾーンや街区を設定し、導入を図る機能等をより具体化しました。

もみじ台まちづくり指針	土地利用再編イメージ
① 活力・共生 エリア	厚別東通沿いを沿道ゾーンとし、生活の魅力向上に資する機能と、多世代が循環する多様な居住機能を導入。特にもみじ台の入口となる位置を「ゲート街区」に設定
② にぎわい・交流 エリア	義務教育学校に加え、公園や旧もみじ台管理センター等を整備するとともに、中心街区の南北に大街区を創出し、にぎわい・交流を生むセンターゾーンの機能を拡張・強化
③ 安心・快適な 居住エリア	居住機能を中心とする低層住宅ゾーンに加え、主要道路沿いに生活利便機能を導入。特に、先行する旧もみじ台南中学校跡地を「ヴィレッジ街区」に設定

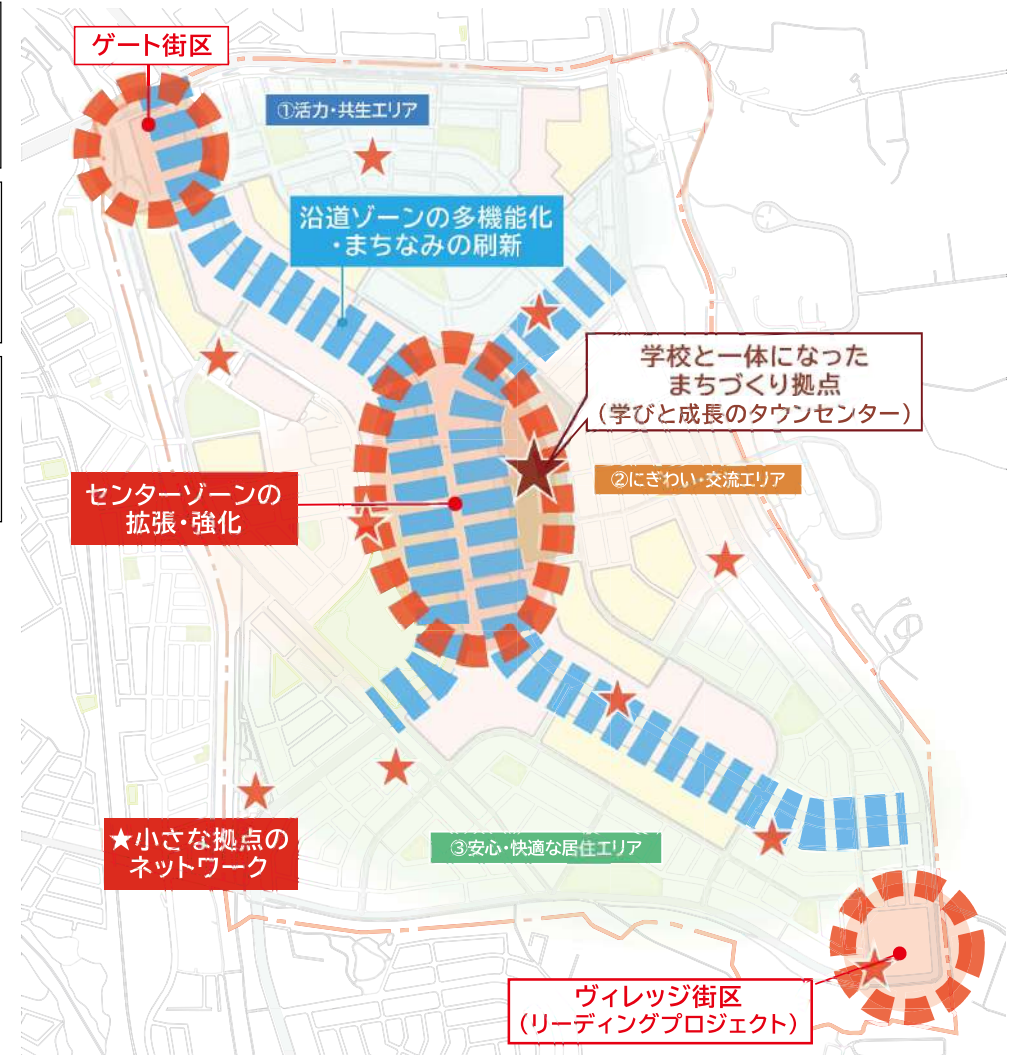


もみじ台まちづくり指針



本グランドデザイン

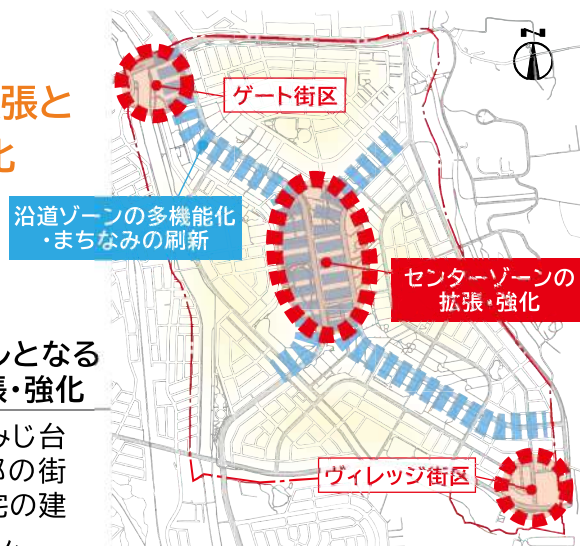
■土地利用再編の考え方



2 土地利用再編の方針

ゾーニングの方針

センターゾーンの拡張と 沿道利用の多機能化



①新たなまちのシンボルとなる センターゾーンの拡張・強化

住民の生活を支え、もみじ台地域を象徴する中心部の街区に隣接して、市営住宅の建替えにより跡地を創出し、義務教育学校やもみじ台管理センター、公園等を配置することで、規模や用途を拡張し、シンボルとしての魅力を強化します。

②まちの内外につながる北のゲート街区と南のヴィレッジ街区

もみじ台地域の玄関口といえるもみじ台中学校の位置する街区は、来街者を呼び込む施設として、すでに空き地となっているもみじ台南中学校跡地は、新たな暮らしを創出する戸建住宅開発として、魅力的で周囲に効果を波及する土地利用を誘導します。

③生活の魅力向上と多世代循環に資する沿道ゾーンの多機能化

①②をつなぐ主たる道路沿道の市営住宅用地は、建替えにより跡地を創出し、住宅や商業施設等の立地を誘導し、住・商などの機能の多様化とまちなみの刷新を図ります。

④時代に合わせた土地利用のあり方の整理・誘導

既存戸建住宅のあるゾーンや近隣センターについても、時代やまちの変化に対応して、あるべき姿を整理し、それを踏まえた土地利用が図られるよう誘導します。

拠点配置と ネットワークの方針

拠点の分散配置と モビリティによる 回遊性向上



①学校と一体となったまちづくり拠点の整備

義務教育学校・もみじ台管理センター・児童会館などをセンターにまとめることで、地域内外からの多世代の出会いや交流、地域活動の活性化等につながる拠点を新たに整備します。

②暮らしを支え、多世代の交流を促進する小さな拠点づくり

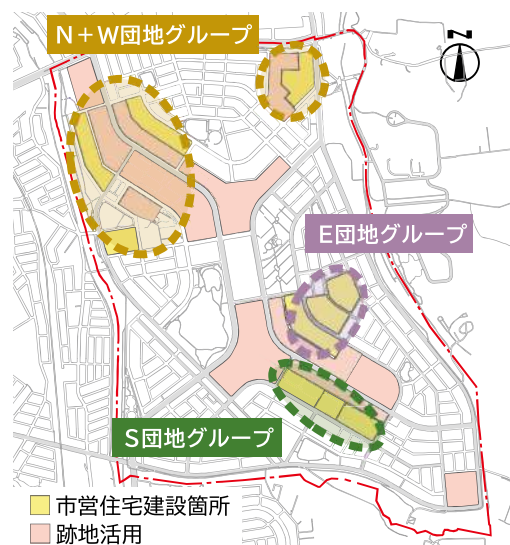
市営住宅の集会所やオープンスペース、跡地を活用した民間施設・住宅の一角などを活用し、地域に開かれた交流・活動のできるスペースを分散的に設けることで、住民の居場所となるコミュニティの形成、コミュニティ間の連携・協働などに貢献します。

③まちづくりと連動した回遊性の維持・向上

今ある路線バスや自家用車に限らず、センターゾーンへの移動やラストワンマイルをつなぐ多様な移動手段を増やすことで、子どもから高齢者まで多様な世代が地域全体を回遊できる動線を維持・向上させることで、地域全体の暮らしやすさの向上につなげていきます。

事業の進め方の方針

3つの事業グループで
同時進行による
段階的な建替えと
跡地の創出



①3つの事業グループの市営住宅建替えの同時進行

N+W団地グループ・E団地グループ・S団地グループの3つの事業グループで、同時に建替えを進めることで、地域全体で市営住宅の老朽化対応、跡地への機能導入、まちづくりをスピーディーに進めます。

②市営住宅の段階的整備による入居者の生活環境の維持

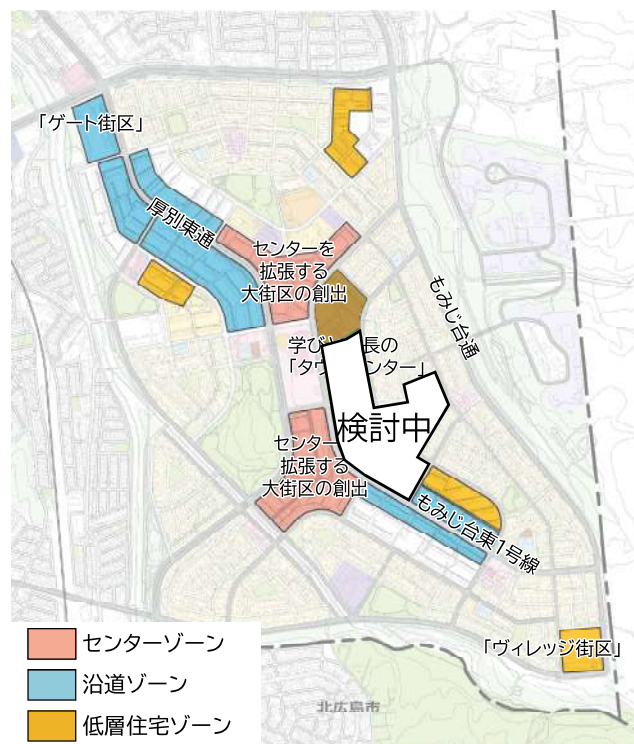
コミュニティの単位等を考慮しながら、段階的に建替え・移転を進めることで、入居者の移転にかかる負担の軽減や移転後のコミュニティの維持に配慮します。

③市営住宅や学校の跡地活用の戦略的なプログラム

建替時期や集約先等を工夫しながら、地域の中心や主たる幹線道路の沿道などに跡地を創出します。地域住民との対話や民間事業者との連携・協働を通じて、それぞれの土地の特性を活かした最適な土地利用を誘導することで、まち全体の価値向上やブランディングにつなげていきます。

3 跡地活用計画(案)

市営住宅や学校等の跡地は、もみじ台の新たなイメージを創る「センターゾーン」、多世代の交流・転入や生活魅力の向上を図る「沿道ゾーン」、世代循環や価値創造につなげる「低層住宅ゾーン」の3つのゾーンに分けて、それぞれに適した土地利用を図ります。



■センターゾーン

もみじ台の新たなイメージを創り、人を呼び込む心臓部

義務教育学校の設置に加えて、まちづくりの新たな拠点となる大規模な公園や5ha級の跡地を中心部に創出し、もみじ台地域の新たなイメージを象徴するとともに、「学びと成長」を体現する拠点的な施設や取組をつくり、地域内外からの来訪・交流を生み出します。

【学びと成長のタウンセンター】



事例：
立命館大学大阪いばらき
キャンパス

約4.5haの防災公園と隣接する大学を一体的に整備し、多世代の交流や地域の活性化、災害時の拠点化に寄与している

【センターを拡張する大街区の創出】



事例：
近畿大学おおさかメディカル
キャンパス

地域再生の起爆剤として、地区センターに隣接した府営住宅・公園の跡地を活用し、大学医学部・病院を導入。通学・通院・雇用などを生むほか、地域開放のスペースも充実している

■沿道ゾーン

多世代の交流や転入と 生活の魅力向上に資する機能導入

若年層転入の受け皿も視野に、交通量が比較的ある幹線道路沿いのまちの景観を刷新し、生活利便性向上等に寄与する施設や新たな都市型住宅等を導入します。

【ゲート街区】



事例：
吹田グリーンプレイス
郊外ロードサイド型のショッピングモールでありながら、大小の建物で広場を囲む構成とし、駐車場を裏側に配置するなど、景観に配慮した計画となっている

【店舗用地等の創出】



事例：
豊中ロマンティック街道
カフェやレストラン、ベーカリー、パティスリー、フラワーショップなど個性豊かな個店が沿道に並び、「ロマンティック街道」の愛称で親しまれている

■低層住宅ゾーン

もみじ台全体の世代循環や 価値創造につながる住宅・施設導入

もみじ台の誇る子育てに適した環境を活かし、若年・ファミリー層の定住を図る戸建住宅、新たな郊外暮らしを提案する住宅や生活を支える施設等を導入します。

【ヴィレッジ街区】



開発イメージ
単なる分譲住宅地とせず、地域との交流を生む共有地や囲み型の住宅配置など、まちづくりをリードする開発の誘導を図る

※左図はイメージであり、決定したものではありません

【ZEH住宅街区の形成】



事例：
SMA×ECO TOWN 晴美台
ニュータウン端部の小学校跡地で開発された日本初のネット・ゼロ・エネルギー・タウン。環境モデル都市の先導事業として、プロポーザルにより選定された

Ⅲ 土地利用再編を進める大作戦

土地利用再編を進めるための具体的な実施手法や手順をテーマ別に解説します。

大作戦1 新たなまちの姿へ導く「都市計画の見直し」

土地利用再編事業は、もみじ台地域への新たな施設・機能の導入と、新たなまちなみ形成を図るための好機となります。

もみじ台らしいゆとりある良好な住環境を保全しつつ、新たな景観やアクティビティの創出、生活を支える多様な機能の導入が図られるよう、地域全体の都市計画を見直し、再編事業を進めます。

①地域地区の見直し

「ゾーニングの方針」を踏まえて、センターゾーンの機能強化、沿道ゾーンへの多様な機能の立地、ゲート街区などの都市施設跡地の土地利用転換を図る等のため、用途地域や高度地区等を見直します。

②都市施設の再配置

都市施設を再配置し、義務教育学校とコミュニティ施設等を地域の中心部に設置します。また、既存の道路ネットワークは活かしつつ、センターゾーンや沿道ゾーンの活用可能性を高めるため、一部の道路を廃止し、大街区化を図ります。

③地区計画の見直し

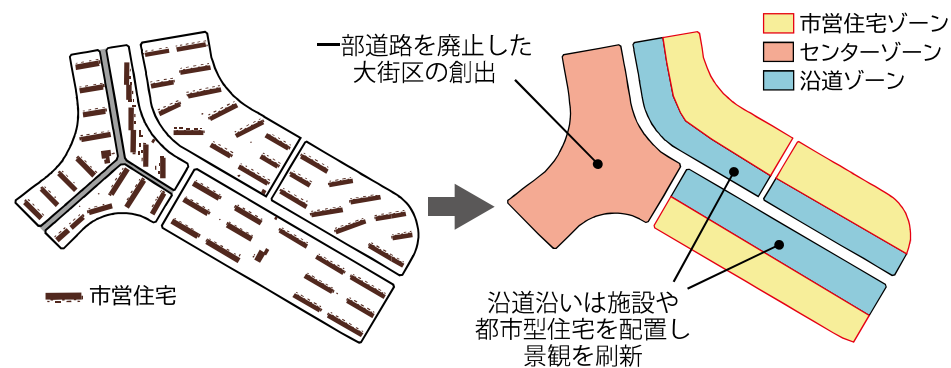
「ゾーニングの方針」に応じてきめ細かに地区計画のルールを見直し、新たな施設・機能の導入と良好な住環境や街並みの形成を図るほか、オープンスペースや遊歩道の整備を誘導します。

④まちづくりガイドラインの策定

気持ちの良い景観や多彩なアクティビティが創出されるよう、周辺環境と調和する色彩や沿道空間の作り方、公共空間活用のルール等を規定する「(仮称)もみじ台まちづくりガイドライン」を策定します。



ニュータウン内の用途地域を変更し、多世代交流拠点施設を整備した事例(兵庫県三木市)



都市施設の再配置のイメージ

大作戦2 まちの再編を速やかに進める「市営住宅の建替え」

①老朽化する団地の効率的かつ速やかな建替え

市営住宅の建替えにあたっては、集約化を図るほか、プレイロットや住棟間の隙間地、学校跡地などの公有地を活用して、効率的かつ速やかに整備事業を実施します。また、建替え時点の入居世帯分の確保を前提として整備戸数を検討します。

②周辺の住環境に配慮した建替え

一定の離隔距離を確保するなど、圧迫感の軽減や日照確保に配慮します。また、集会所など、地域住民が利用可能な共用空間を整備し、良好な住環境の形成に配慮します。

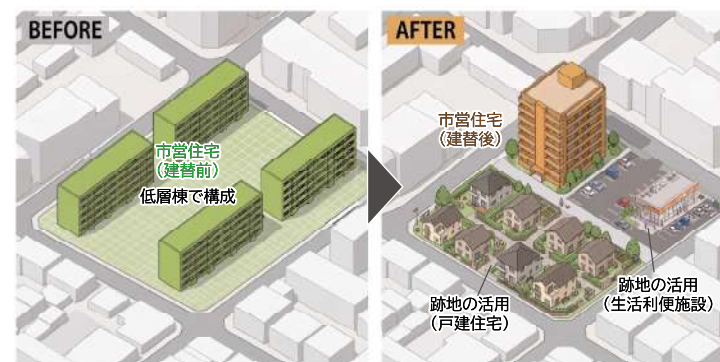
③建替事業による入居者の移転は、基本1回

入居者が、生活圏域を大きく変えずに暮らし続けられるよう、可能な範囲で近い位置での移転となるよう配慮した計画とします。

また、高齢の入居世帯が多いことから、負担を軽減するため、仮住まいへの引越しは行わず、現在の住宅から建替住宅へ直接引っ越すこと（移転は1回）を基本とします。

④現在の自治会活動が継続可能な、自治会単位での移転

市営住宅もみじ台団地は、複数の自治会に分かれています。建替え後も現在の自治会活動が継続できるよう、移転先をまとめ、同じ自治会の入居世帯が分散しないよう配慮します。



市営住宅の集約化のイメージ



大作戦3 地域コミュニティの活性化を図る「地域資源の最大活用」

もみじ台地域には、計画的に配置、整備された公園や遊歩道があり、徒歩の買い物を対象とした店舗が立地していた近隣センターが5か所あります。これらはかつての交流拠点でしたが、現在は空き店舗も多くあまり使われていません。また、市営住宅には空き住戸が多く、駐車場用地などにも余裕があります。

緑豊かな住環境だけでなく、こうしたまちの余白も“地域資源”として有効活用し、身近な交流拠点としての再生や担い手創出を図り、新たなまちづくり機運づくりにも役立てます。また、後述するエリアマネジメントの展開にもつなげ、住み続けられ、住みたいと思える住環境の形成をめざします。

①近隣センターの交流拠点としての再生

交流拠点として活用するための企画づくりを通じて若い世代の参画を促すなど、新たなまちづくりネットワークの形成を支援します。また、公園や歩行者専用道路、空き店舗、駐車場用地が有効活用されるよう運用のルールづくり等を検討します。

若者や子育て世帯をはじめ、誰もが利用できる交流拠点としての再生を図るとともに、地域またはエリアマネジメント組織主体での新たな活動・事業の創出につなげます。



① 近隣センター



②市営住宅の屋外空間の活用

建替えが当面先となる市営住宅の屋外空間(駐車場、広場)は、周辺の大学・事業者と連携し、建替えまでの暫定利用を前提とする活用プログラムを検討します。

また、地域ニーズに応じて、屋外空間の民間駐車場としての活用や、小規模店舗用地等としての活用についても検討します。



公営住宅用地を活用して生活利便機能を導入した事例(大阪府)

③空き住戸の活用

もみじ台地域では、市営住宅の空き住戸を活用した学生入居を行っています。今後は居住機能に限定せず、地域コミュニティの活性化や、再編事業の機運醸成、跡地活用後のエリアマネジメント活動にもつながるような活用を図ります。

学生入居の写真ください

もみじ台の市営住宅への学生入居

大作戦4 暮らしの質を高め、地域の課題解決に貢献する「先進技術導入の検討」

日々の生活利便性や暮らしの質の向上、地域での取組・活動が持続可能なものとなるよう、土地利用再編と連動して、移動手段確保や担い手不足解消、防災・減災、脱炭素・ゼロエネルギー化、タウンサービスの展開などにおいて、デジタル技術等の先進技術の積極的導入を検討します。

①日常の「足」の維持・向上に向けた取組

生活利便施設の減少やバス路線の縮小といった背景と土地利用再編後のまちの将来像を踏まえて、地域内の回遊性向上やラストワンマイルの足を確保するため、既存の公共交通を補完するモビリティサービスなどを検討します。



自動運転バスのイメージ

例 | オンデマンド乗合送迎サービス、自動運転バス

②スマートシティ化による生活利便性の向上

防災・減災につながるIoTシステム、タウンサービスの展開、3D都市モデルを活用したデジタルプラットフォームによる情報の集約・発信などのデジタル技術を後述するリーディングプロジェクト等で積極的導入を検討します。



もみじ台地域の3D都市モデルのイメージ

例 | 赤外線カメラ付ドローンを活用した冬季災害時の被災者探索

③AI等を活用した地域活動支援の取組

地域内にある情報のデジタル化等を行い、自治会などの地域の活動の可視化、地域活動の担い手確保や若者世代の参画など、地域課題に対応する取組を検討します。



例 | 貸しスペース等のスマート予約・共有・入退室システム
例 | 冬季における積雪・路面凍結予測＋災害避難ルート表示

④脱炭素・ゼロエネルギー化による付加価値創出

建築物のゼロエネ化を図るための検討や、地域熱供給などこれまでの取組を踏まえつつ、地域全体で脱炭素を実現する取組や、後述するリーディングプロジェクト等で積極的導入を検討します。



ゼロエネ化をめざした住宅地イメージ

例 | 太陽光発電、ZEB・ZEH化、定置用蓄電池、xEMS

大作戦5 検討段階から官民連携で事業を進める「事業パートナー方式の導入」

もみじ台地域の再編事業は、大規模かつ長期間にわたる連鎖的な事業となります。

後述するエリアマネジメントの取組を含めて、良質な事業を着実に進めるためには、事業計画の検討段階から民間事業者が関わることが求められます。整備から運営まで一貫した事業の考え方を、官民連携体制で検討・共有したうえで、社会的課題解決モデルとしての価値、およびビジネス機会としての価値を高め、双方にとって有益な形で事業を進めることが重要となります。

そのため、事業者の選定過程において、官民連携で各種整備事業やまちづくりを進める手法のひとつである「事業パートナー方式」を導入し、土地利用再編に伴う整備事業からエリアマネジメントまで、継続して事業者がまちづくりに関わる体制づくりを行います。

■事業パートナー方式について(案)

事業パートナー方式とは

事業計画の検討から、各整備事業、エリアマネジメントまで、継続してまちづくりに関わる事業者(事業パートナー)とともに、まちづくりを進める方式

事業パートナーに期待する主な内容

フェーズ1 市が検討する下記内容に対する意見(対話)と提案

【(仮称)再編事業推進計画】

例:ブランディングイメージ、土地利用計画、まちづくりガイドライン

例:エリアマネジメントの事業内容、原資確保手法

【街区単位の事業計画】

例:市営住宅建替え・跡地活用に関する事業条件(事業方式、権利形態など)

例:跡地に導入する用途や機能のイメージ

【地域全体で取組むべきテーマと事業スキームの検討】

例:モビリティサービス、公共空間の暫定利用、雇用創出、先進技術導入

フェーズ2 各再編事業への参画・実施(公募方式)

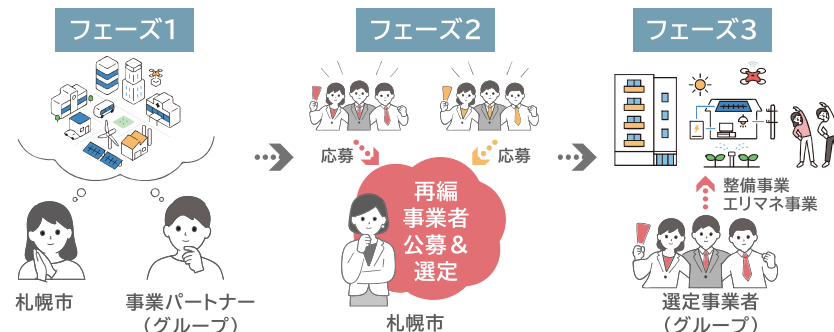
フェーズ3 再編事業での施設整備やエリアマネジメント事業の実施

事業パートナーとなる事業者とは

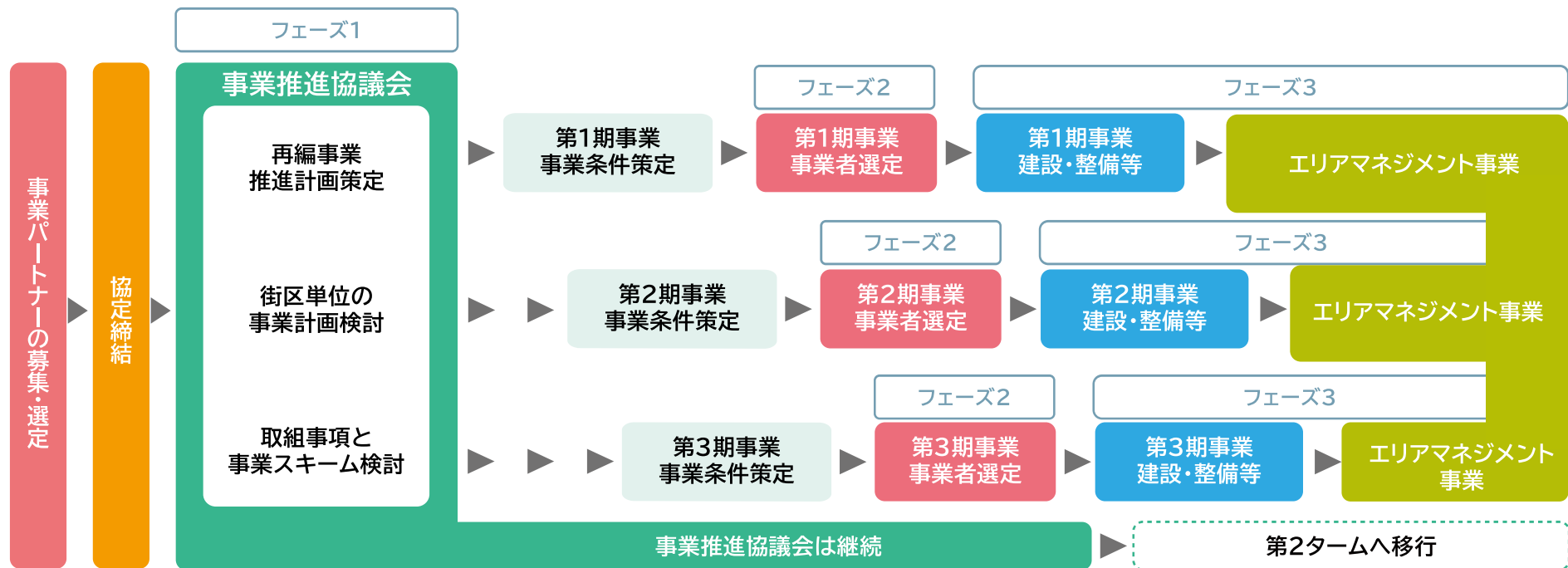
下記に関する経験や実績を有する民間事業者・団体(グループ含む)で、整備事業から整備完了後のエリアマネジメントまで再編事業に参画・関与する者を想定。公募を行い、選定された事業者で事業推進協議会を設立する。

- 公共施設の跡地活用事業
- エリアマネジメントや地域コミュニティ活性化事業
- 民間住宅地や住宅団地の再生事業
- 市営住宅の空き住戸や団地空間の活用事業
- 公共施設等の管理運営+地域貢献に資する事業

※事業パートナーとなる事業者に対しては、再編事業実施の際に、応募・参画によるインセンティブの付与を検討する



事業パートナー方式の導入の流れ ※当面は10年程度(3期事業まで)を1区切りとして想定



大作戦6 もみじ台地域の持続的な運営を実現するための「エリアマネジメント体制と仕組づくり」

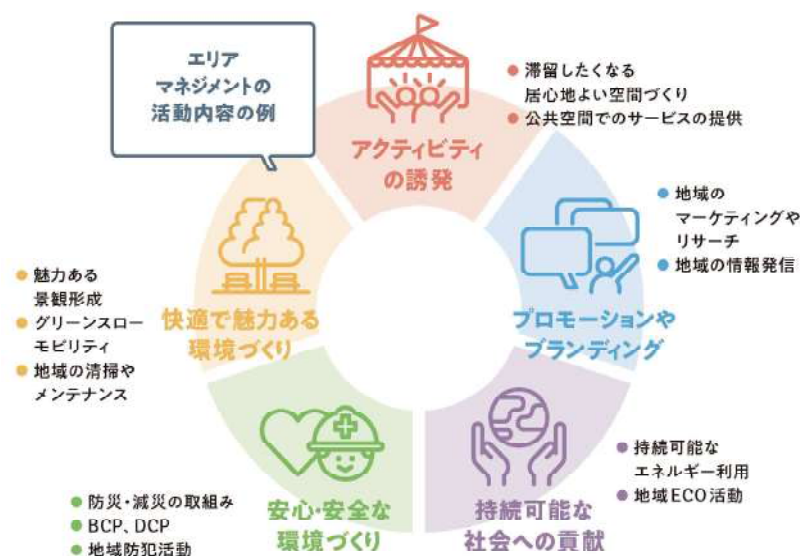
市営住宅等の公共施設の再編事業、延べ36haの跡地活用事業は、様々な民間事業者・団体がもみじ台地域に関わりを持つ好機となります。これらの事業を活用して、行政と民間事業者・団体、地権者や地域団体等が協働・連携して、空間や場(モノ)と体制(ヒト)と仕組(カネとルール)をつくり、空間づくりと暮らしの両面から、もみじ台地域の価値を向上するための取組(エリアマネジメント)を進めます。

■もみじ台地域でのエリアマネジメントについて(案)

エリアマネジメントとは

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業者・地権者等による主体的な取組のことです。

多様な主体が関わり、持続的に活動・取組を行うための「体制」と「原資」(資金)が確保されていることが重要となります。



「多様性を備えたクリエイティブな都市へと再生するエリアマネジメント」(国土交通省)

もみじ台地域のエリアマネジメントのポイント

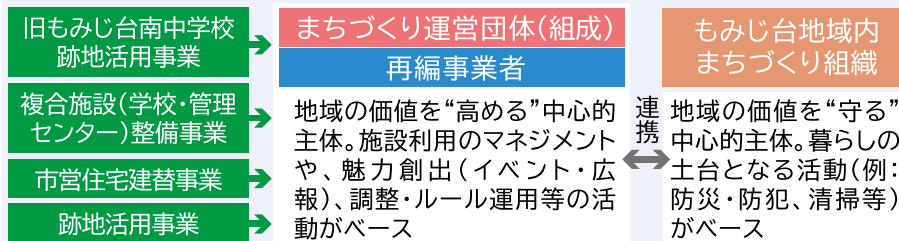
もみじ台地域では、市営住宅建替えや跡地活用などの再編事業を通じて、「まちづくり運営団体」(エリアマネジメント組織)を組成します。

まちづくり運営団体は、まちを経営する視点を持ち、公共施設の管理運営等を通じて事業・活動原資を得ながら、空き住戸や店舗、公園・広場等を活用した地域コミュニティ活性化や多世代交流の取組、広報・情報発信等を進めます。また、市場リサーチや、開発マネジメント、まちづくりルールの運用等の役割を担い、事業者・団体の参画や活動を促します。

このほか、多層的な取組が行われるよう、再編事業の付帯事業としてエリアマネジメント事業の実施を位置づけ、事業者の取組を促します。

上記を実現するため、札幌市では、令和8年度以降、(仮称)再編事業推進計画の作成に着手し、事業パートナーとともに、エリアマネジメントの仕組と体制を検討する予定です。

【再編事業を通じたエリアマネジメントの中心主体と役割のイメージ】



もみじ台地域のエリアマネジメントの推進体制案

エリアマネジメントの推進体制は、関係者間で信頼関係を深めながら、段階的に推進基盤を整えることが重要となります。

まずは、下記に示す関係者とともに、(仮称)もみじ台エリアプラットフォームを組成し、めざす将来像の共有とともに、エリアマネジメントの取組内容や実施条件、評価方法等について協議・調整します。

主な関係者

札幌市	再編事業の主たる事業主体。エリアマネジメントを含む再編計画を策定し、都市計画変更や各種事業の事業者公募等を実施
(仮称)もみじ台エリアプラットフォーム	もみじ台地域に関わる主要な関係者で構成。エリアマネジメントで取組方針や、事業条件、エリマネ活動の評価などを検討
まちづくり運営団体	再編事業を通じて組成予定。公共施設管理運営等を通じて活動原資を確保し、もみじ台地域の地域価値を高めるため、多世代交流の取組、地域ブランディング、公共施設の活用マネジメント、まちづくりルールの運用等の役割を担う
再編事業者	各事業(市営住宅整備、複合施設整備、跡地活用)の整備・運営事業を実施するとともに、プラットフォームにも参画し、付帯事業に組み込まれたエリアマネジメントの取組にも取り組む
もみじ台地域内まちづくり組織	もみじ台地域内の自治会や福祉・学校関係、ボランティアなどの各種団体。地域の担い手として引き続き様々な活動を実施

(仮称)もみじ台エリアプラットフォーム

<役割>
・エリマネの取組方針
・まちづくり運営団体の選定・評価 など

<主なメンバー>
-札幌市
-もみじ台地域内のまちづくり組織
-テクノパーク
-教育機関
-金融機関 など

選定・評価



評価



まちづくり運営団体

<想定される事業・取組>

- 公共施設・用地の活用・マネジメント
- 市場調査、開発マネジメント、まちづくりの運用等
- 地域コミュニティ活性化、多世代交流の取組
- 移住・居住支援、地域防災、緑地保全等の取組
- 地域ブランディング(広報・情報発信) など

再編事業者

<想定される事業・取組>

- 公共施設の整備
- 民間施設(商業・文化・医療)の整備・運営
- アート、サーキュラーエコノミー、リスクリング等をテーマにした学び・知的創造の取組 など

エリアマネジメントで想定される事業・取組

新たに創出される空間や場では、「作る」と、「使う」ことを同時に考えることが重要となります。社会実験や試行・検証を重ね、情報を共有しながら、使い方のルールをつくることがポイントとなります。

事例写真掲載予定



建替団地で防災かまどベンチを使った交流活動の事例(大阪府東大阪市)



回一カルフォトグラファーズ講座のイメージ



団地屋外空間を活用した交流イベントのイメージ



アート×団地活用の取組の事例(茨城県取手市)



地域のくらし・魅力の発信の事例(奈良県生駒市)

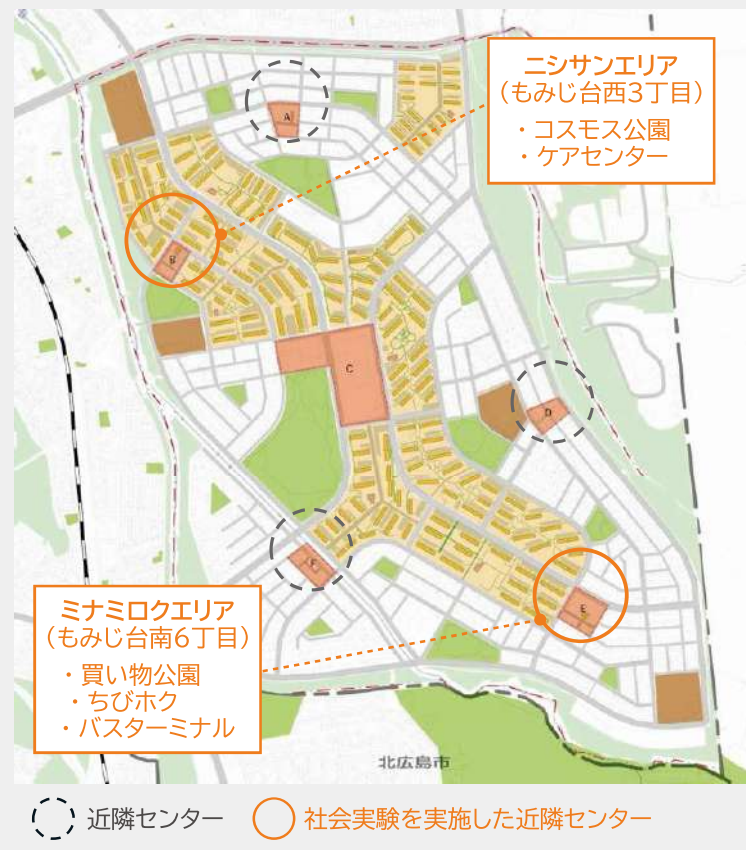
Column3 近隣センター再生の萌芽（令和7年度のミニ社会実験の成果）

令和7年秋、自治会・近隣店舗・民生委員児童委員協議会・大学と連携し、2か所の近隣センターでミニ社会実験を実施しました。
 滞留空間の設置や公園・歩行者専用道路を活用したカフェ・あそび場づくり、店舗内空きスペースでの物販などにより、交流拠点としての近隣センターの可能性を検証しました。本実験は地域の皆さまのご協力により開催できました。

【ミニ社会実験の概要】

目的 交流拠点の可能性検証
 もみじ台のまちづくり情報の発信（パネル展示）

参加者 延べ1,230名 ※ミナミロクは地域の祭と同時開催



＼道路や公園を活用して、世代を超えた交流が生まれました／



ミナミロクエリア(もみじ台南6丁目)

実施日 ニシサン:9/26(金)-29(月)
 各日10:00-16:00

内容 ステージでの催し物
 子どもたちのあそび場・ヨーヨーすくい
 お惣菜の販売・地域作家による販売
 キッチンカー・コーヒースタンド出店
 築づくりワークショップ
 お抹茶ワークショップ
 組立式の和室
 まちづくりパネル展 など

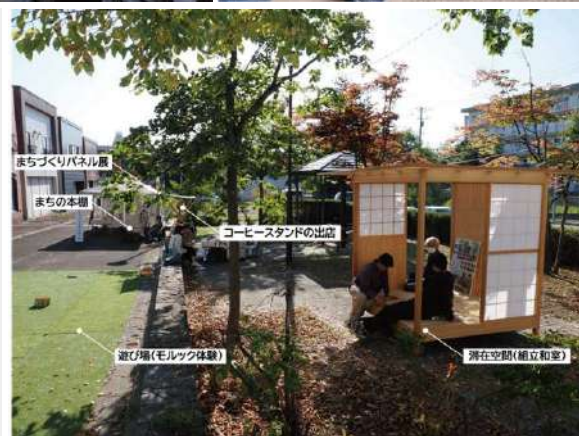




ニシサンエリア(もみじ台西3丁目)

実施日 ニシサン:10/2(木)~10/5(日)
各日10:00-16:00

内容 子どもたちのあそび場(モルック)
本を持ち寄り交換するまちの本棚
コーヒースタンド出店
焼きマシュマロ
木工ワークショップ
葉づくりワークショップ
組立式の和室
まちづくりパネル展 など



＼来場者の皆様から感想をいただきました／

いつもは静かな公園が
こんなに楽しい場所になるなんて驚きました。



子どもからお年寄りまで世代を超えて
楽しめるイベントでとても良い機会でした。



もっとたくさんの人に知ってもらえるよう、
周知にも力を入れてほしいです。



ご近所の方々と顔を合わせることができ、
交流の良いきっかけになりました。



身近にこういう催しがあると散歩がてら
気軽に出かけることができて嬉しいです。



昔の賑わいを思い出すような活気のある
雰囲気、とても良かったです！



今日みたいなおまつりを
地域主体でやっていきたいです。

